専大スポーツ
No. 395
【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
【専スポ編集部web】https://sensupo.com/

鮮烈デビュー

高萩優勝

1万メートルポイントレース

全日本トラックレーススピード選手権＝4月6～7日、江戸川区・水辺のスポーツガーデンローラーコート

ローラースケートのスピード部門日本一を決める大会が行われ、シニア女子の部で高萩嬉ら（文1・光丘高）が1万㍍ポイントレースで優勝。デビュー戦を見事勝利で飾った。

最終ゴールまでの合計得点によって順位を決めるポイントレース。長距離が得意の高萩は31ポイントでゴールした。「自分が一番理想としている形で勝てたのでうれしい」と喜びをかみしめた。また200㍍タイムレース、500㍍、1000㍍、1万㍍エリミネーションレースで準優勝し、その実力を遺憾なく発揮。7月にスペインで行われる世界選手権への出場を決めた。「スピードだけではなく駆け引きも重要になるので、練習に励んで良い成績が出せるように頑張りたい」と意気込みを語った。

シニア男子の部では山本天平（文4・船橋芝山高）が200㍍タイムレース、500㍍、1000㍍、1万㍍エリミネーションレースで準優勝した。（村山健人・商2）

1万㍍ポイントレースの表彰式で賞状を手に笑顔の高萩

馬場 2種目で表彰台

全日本スキー選手権＝3月19～23日、北海道音威子府村・チセネシリクロスカントリーコース

シーズンの締めくくりとなるこの大会に出場した馬場直人（経営4・中野立志舘高）は15㌔で2位、50㌔で3位に入った。

ユニバーシアードを終えてすぐのレースとあり、疲れが残る中ではあったが、2種目ともトップとは僅差のタイムで、優勝まであと一歩のところまで迫った。それでも馬場は「調整がうまくいかず、実力を出し切れなかった」と納得いかない表情。

この1年は、ナショナルチームに所属してトレーニングを見直し、世界選手権出場、ユニバーシアード優勝につながった。

「自分にとって最も特別なシーズンになったと思う。世界選手権やユニバーシアードでの経験を今後の競技人生の糧にしたい」と充実したシーズンを振り返った。（池村友輔・文2）

吉田・小林組 ベスト4

東京卓球選手権＝3月22～24日、世田谷区・駒沢体育館

積極的に攻撃を仕掛ける吉田（左）と小林

全国の高校、大学、実業団選手が参加するハイレベルな大会で、男子ダブルスの吉田海斗（文1・希望が丘高）・小林准也（文1・松徳学院高）ペアがベスト4入りした。

準決勝で明大の龍崎・遠藤選手ペアにストレート負けを喫し、2人は「自分たちのプレーができなかった」と悔しさをにじませた。

それでも小林は「大きな大会でベスト4まで進むことができて自信につながった」と語った。

男子シングルスでは期待のルーキー・遠藤碧人（大会時は高校3年、4月に卓球部入部）がベスト4に。準決勝で今大会を制した明大の龍崎選手に2―4で敗れ、「大事な場面で強気になれなかったことが敗因。団体、個人ともに大学日本一を目指し、練習に励みたい」と4年間の意気込みを語った。（村山）

新戦力躍動 開幕戦ドロー

関東大学サッカーリーグ戦・開幕戦＝4月7日、千葉市・フクダ電子アリーナ

開幕戦の相手は昨シーズンと同じ流経大。白熱した点の取り合いは3―3のドローに終わった。

前半7分にフリーキックから失点したが、14分にリーグ戦デビューの郡司侑弥（経済2・真岡高）が右足を振り抜きゴール。23分には岸晃司（経営4・川崎北高）のミドルシュートで逆転に成功した。2―2で迎えた後半39分、コーナーキックから加藤慎太郎（商2・板橋高）が頭で合わせてリードを奪ったが、アディショナルタイムにペナルティーキックを決められ、白星を逃した。

ゴールを決め、スピードに乗ったドリブルで何度もチャンスを作り出した郡司は「初めての公式戦で緊張したが、ゴールを決めてからは自分のプレーができた」と納得の表情。勝利はお預けとなったが、期待が膨らむ一戦だった。（一家駿介・文2）

開幕戦スターティングメンバー＝撮影・乾桃花（文2）

開幕カード 勝ち点逃す

東都大学野球春季リーグ戦（2部）第1週＝4月8～12日、上尾市民球場ほか

日大との開幕カードは1勝1敗で迎えた3戦目を7―9で落とした。

1戦目は先発したエースの前田敬太（商4・中部商高）が8回1失点と圧巻の投球を披露。しかし、打線の援護なく、1―0で競り負けた。

2戦目は初回、4番の火ノ浦明正（経済4・れいめい高）のタイムリーで先制。その後、寺澤圭祐（経営4・検見川高）、金沢龍介（経済3・秋田高）の本塁打などで得点を重ね、5―4で今季初勝利を手にした。

第3戦は初回、平湯蒼藍主将（経済4・海星高）の犠飛、岡本良樹（経営4・専大松戸高）の二塁打などで3点。三回表にも火ノ浦の犠飛で4―0とリード。しかし前田が五回に満塁本塁打を浴びるなど5失点。六回に大庭樹也（経済3・明豊高）の2ランで再びリードしたが八回に4点を奪われ、九回に1点を返すが及ばなかった。

平湯主将は「自分たちの野球はできたが相手のほうが一枚上手だった。次戦以降は一つも負けないように戦っていく」と話した。（八代哲・経済3）

複合馬術 団体3位

東都学生馬術大会＝3月22～24日、相模原市・津久井馬術競技場

複合馬術競技で鈴木良明（経営3・上鶴間高）・リアルモード号が5位、深谷光明（商3・安城農林高）・ドリームチェイサー号が6位に入り、団体で3位となった。

深谷は「初めてのコンビで出場する選手が多かったが、この経験を次につなげたい。関東学生、全日本学生に向けてチーム一丸となり、必ず結果に結び付けたい」と抱負を語った。（内田裕士・法3）

【注】3月31日までの大会は、選手の学年を旧学年で表記しています。

体育会新入生セミナー開催

山中さん特別講師

今年度、体育会に入部した学生を対象とした専修大学体育会新入生セミナーが3月23日、生田キャンパスで開催された。今回はボクシング部OBで、元世界ボクシング評議会（WBC）バンタム級王者の山中慎介さん（平17商）が特別講師を務めた。

工藤主将を相手に「神の左」といわれたストレートを披露する山中さん

講演は、学生の代表者3人からの質問に山中さんが答える形で行われ、無敵を誇った元世界チャンピオンの話を新入生は真剣に聴き入っていた。質問者を務めたボクシング部主将の工藤慎也（経済4・盛岡南高）は、「ここ10年、ボクシング部は1部リーグを経験していないので、復活のための年にする」と意気込みを熱く語った。（髙田康平・経営3＝写真も）

専Sation 第21号発行

専修大学体育会本部情宣局「専大スポーツ」編集部（通称「専スポ」）が企画、取材、紙面編集を独自で行っているフリー雑誌「専Sation」21号が4月3日に発行された。

巻頭は、福岡ソフトバンクホークスで活躍する野球部OBの高橋礼選手（平30商）のインタビュー。ほかにもTリーグに参戦した卓球部OGの安藤みなみ選手（平31商）、横浜FCに入団したサッカー部OBの中山克広選手（平31経済）、大学生ながらBリーグに出場したバスケットボール部の盛實海翔選手（商4・能代工高）らプロの舞台で活躍する選手を紹介。平成最後の専Sationにふさわしい、充実した内容でお届けする。

キャンパス内のラックなどで配布。部員の情熱がこもった一冊をぜひ手に取ってほしい。定期購読も随時募集中。詳しくはホームページ（https://sensupo.com/）で。（白鳥順也・経済3）